

瀬戸内寂聴

99年生きて思うこと

監督:中村 裕

出演:瀬戸内寂聴

プロデューサー:松浦 敬 阿部 毅 成瀬保則 伊豆田知子
製作:朝日新聞社、KADOKAWA、平成プロジェクト、スローハンド、
クイーンズカンパニー、徳島新聞社、京都新聞、朝日放送テレビ
配給:KADOKAWA 制作:スローハンド 協力:曼陀羅山 寂庵
©2022「瀬戸内寂聴 99年生きて思うこと」製作委員会

大正、昭和、平成、令和と

4つの時代を生きた作家が語る、

「恋」と「革命」その人生。

密着17年一。誰も知らない瀬戸内寂聴の
金言の数々と秘蔵映像。



晩節なんか汚したっていい。
好きに行動すればいいの。

《生誕100年記念》に緊急公開!



国民的作家・寂聴さんと
ディレクター“裕さん”。
密着17年。二人の間に
“タブー”はない。

2022年5月15日で満100歳を迎えるはずであった瀬戸内寂聴に、密着17年間という歳月を撮影し続けた監督・中村裕。2015年にNHKスペシャル「いのち 瀬戸内寂聴 密着500日」(ATP賞ドキュメンタリー部門最優秀賞受賞)のディレクターもつとめた実力派監督だ。17年に及ぶ密着では、日常的に互いに全てを報告し合う、まるで母親、先達、友人、あるいは恋人のような…形容しがたい関係性の二人。長年、寄り添い続けた監督だから描ける“誰も知らない瀬戸内寂聴”の“本音”や“金言”の数々が満載の貴重なドキュメンタリー映画が誕生した。

99年の恋と革命。
その波乱万丈の「生き様」とは一。

寂聴は、死の直前まで月刊誌、新聞の連載をこなす“現役”作家であり、2020年1月まで行っていた、月一の法話には全国から人が押し寄せる「最長寿の国民的アイドル」。駆け落ち、不倫、三角関係など、自らの体験を私小説の形で次々に発表し、世間のパッシングに晒されるも、女流作家として不動の地位を確立。51歳のとき出家し、以来、僧侶、作家の2つの顔を持つ。いつまでも恋心を持って生きる一。女性であるということをお忘れず人生を楽しむ一。彼女の“生き様”は、不寛容な空気が充満しつつある現代社会で、人間の生命力とは何かを強く感じさせてくれ、(いかに生き、老いていけばいいのか)というヒントともなるはずだ。

生きるということは、死ぬ日まで自分の可能性をあきらめず、与えられた才能や日々の仕事に努力しつづけることです。



生きることは愛すること。

瀬戸内寂聴
99年生きて思うこと



すばる映画祭 ~Film Collection~

2022年/95分

令和5年 2月15日(水) [全席自由]

14:00開演 (開場は30分前)

すばるホールの2Fホール
SUBARU HALL (1階席のみ)

※ 駐車場に限りがあります 電車・バスをご利用ください

入場料

一般 1000円(当日1200円)
割引 900円(当日900円)

※ 割引対象は60歳以上・高校生以下・障がい者の方及びその介護者1名まで

<すばる友の会会員前売>

一般 900円 割引 810円

チケット販売所

すばるホール(ホームページからも購入可)
ラブリーホール/SAYAKAホール/LICはびきの
喫茶コンゴ(富田林市役所内)
ローソンチケット【Lコード:52733】
1月6日(金) 発売開始(友の会も同日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各種対策(検温など)や制限(マスクの着用など)を設けさせていただきます。あらかじめご了承ください。

※当日会場に本チラシご持参で当日料金より一般の方のみ100円割引きでご入場できます。(1枚で3名まで有効)

■主催(公財)富田林市文化振興事業団 / 大阪映画センター

◆問い合わせ/☎0721-26-2060(すばるホール富田林市桜ヶ丘町2-8)